

なかゆくい

Series 1 st

沖縄国際映画祭に行ってきました

経済産業部商務通商課



ビーチステージでの様子



ビーチ花火が吹き上がり



炎が吹き出し、開会です



仲井真知事らによる来賓挨拶



シネコン前の様子



招待作品出演者らも登場

平成21年3月19日（木）～22日（日）の4日間、北谷町のアメリカンビレッジ（及び近郊）を会場として、第一回沖縄国際映画祭が開催されました。

本イベントは吉本興業株が中心となつて企画したもので、吉本興業らしく「笑い」をテーマにしたユニークな映画祭となっています。

「Laugh & Peace」

をスローガンにした、このイベントのオープニングセレモニーでは、招待作品・出品作品の監督や出演した女優・男優らがレッドカーペットか

ら次々と登場し、大勢の招待客や観衆から歓声があがりました。

午後四時半過ぎ、前日までの雨天・曇天を吹き払うように青空が広がり、北谷・サンセッショナ内に設置したビーチステージでセレモニーが始まりました。

司会進行役の今田耕司さん、木佐彩子さんもやや緊張の面持ちです。

そして、突如ステージ前方から花火や炎が吹き上がり、開会式が始まりました。

ステージ近くに座っていた方に、感想を聞いてみると、

「今週は天気が良くなかったので心配でしたが、何とか晴れましたね。青い空が顔をのぞかせて、ホッとしたのは良いのですが、ちょっと暑かったです。目の前で炎が吹き出して、違う熱さも体感しました。」

と苦笑い。記念すべき第一回のセレモニーにつき、ご容赦ください。

その後、来賓代表として、仲井眞弘多沖縄県知事と野国昌春北谷町長がそれぞれ英語を交えながら挨拶をして、四日間にわたるビッグイベントのスタートとなりました。

会場となったアメリカンビレッジ内のシネマコンプレックスでは、初日特別招待作品である

「GOEMON」

「イエスマン」YESは人生のパスワード、「おっぱいバレー」が上映されました。

「GOEMON」「おっぱいバレー」は出演者らによる舞台挨拶が予定されていたこともあり、当日券が完売していたにもかかわらず、せめて入場する出演者を見ようと、大勢のファンが詰めかけました。

開会初日には、オープニングセレモニー、二日目にはウェルカムパーティ、最終日にはフェアウェルパーティ

ティーがそれぞれ開催され、中国、香港、韓国等の映画人らと日本・沖縄の関係者、経済団体等の方々との交流が始まりました。

特別招待作品として出品した地元出身、ガレッジセールのゴリさんも含め、多くの映画関係者が集まつたこの映画祭。現在のところ、二年後の平成23年まで三年間は開催の予定だということです。

国内では東京国際映画祭やゆうばり国際ファンタスティック映画祭が有名ですが、世界三大映画祭である「カンヌ国際映画祭」（フランス）、「ヴェネチア国際映画祭」（イタリア）、「ベルリン国際映画祭」（ドイツ）と並ぶ知名度に成長するためには、地元の協力、多くの方々の支援が必要です。それを達成するためには、様々な取組を進めることで、観光立県沖縄に新しいスポットが誕生し、それに関連し、色々な産業が立ち上がりしていくことでしょう。

映画セットの小道具作り体験やCMコンペティションも行われることのイベント。来年は積極的に参加し、あなた自身も沖縄の新しい風を肌で感じてみませんか？

色々な方が写っていますが、知っている方は何人いますか？



追伸 本映画祭コンペティション部門における最高賞「ゴールデンシーサー賞」は本木克英監督の『鴨川ホルモー』、観客投票による「海人賞」は金成旭（キム・ソンウク）監督の『Unstoppable Marriage』がそれぞれ受賞しました。おめでとうございます。

